
”キミ”が輝く夜空のむこう

朔良梨里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

”キミ”が輝く夜空のむこう

【Zコード】

Z5130E

【作者名】

朔良梨里

【あらすじ】

いつも隣には”キミ”がいて、笑いあって、喧嘩して・・・毎日がきらきらと輝いていた。命・死・・・そして生きるということ天使が笑つて、奇跡を届けてくれた 切ない恋愛小説です。

”キミ”が輝く夜空のむすび

プロローグ

あの時から

”キミ”は僕の隣にいた

いつしかそれが普通になっていた

”キミ”がいて

”僕”がいて

楽しくって

幸せで・・・

永遠に続くと思っていた・・・

もしもこれが運命なのだととしても

ただの偶然なのだととしても

” カミ ” に出会えてよかったです

やひ、思ひ

あの夜空を見るたびに思い出す

そう、何度も

始まりはあの日

夜空の下

冬のある日

大きな

木の下で・・・

1・出会い

風が冷たい。

雪が降つてゐる。

真つ暗な空。

その中で輝く星

手を伸ばす

届かない

掴めない

分かつている

それでも

星はあそこにある

輝き続いている

川のせせらぎの上。

僕のお気に入りの場所だ。

大きな木がそびえ立つていて、その木の下で見る街の景色。

とても綺麗で、それでいてどこか悲しい

毎日ほとんどのところ。

唯一心の落ち着く場所。

「はあ」

今日はとても寒い。

といつても、まだ十一月二十四日。

俗に言う、クリスマスイブだ。

でも僕には縁がない。

いつもひとり。

それが当たり前になっていた。

家族ともあまり話さない。

友達もあまりいない。

それは自分が選んだことだから。

自分でも・・・それでいいと思つていた。

ずっと・・・

木の下に行こうと思つた。

僕がいる場所は、木から少しほなれたところだ。

そこにあることこの気がついた。

「え・・・」

木の下に誰かがいる。

こんな時間に。

暗い中、よく見てみると、女の子だった。

髪は肩のところまであって、とても・・・綺麗だ。

しかし顔色はあまりよくなかった。

どうしたのだらう。

彼女は空を見ている。

一歩一歩彼女に近づいていく。

すると彼女も僕に気がついたようで、振り向いた。

そして 彼女は微笑んだ。

夢げで

少しでも触れたら

壊れそうなほど

纖細で

これが”キリ”との出会いだった

「あなた、誰？」

いつの間にか僕の目に前に彼女がいた。

そしていきなり彼女に話しかけられた。というより訊かれた。

「誰って言われても……」

僕があせつていると、

「何でこんなところにいるのよ！？今日はクリスマス！こんな人気のないところに好んでくる人がいるはずがないわ！」

「…それを言うならあなただって」

「…ふんっ」

彼女は頬を膨らませた。

どうやら憤慨しているようだ。

それつきり、しばらく沈黙している。

…やつきの笑顔はなんだつたのだろう。

幻覚をみたのだろうか？

いや、そんなことはないはず。

確かにさつきはとびっきりの素敵な笑顔を…。

いろいろ考えていると、彼女が沈黙を破った。

僕を睨みながら、

「つたぐ。私の名前は柊乃亜。分かつた？分かつたならあなたも名乗りなさいよー。」

大人しそうに見えて結構きつい人だ。

でもそれがわざとらしくて、かわいい。

自然と笑いがこみ上げてきた。

「あはっ。僕は櫻井想。これでいいだろ？」

「う。何よー。」

彼女 乃亜は顔を真っ赤にさせている。

「あ、ごめん。こんな会話久しぶりだったから」

ついつい謝ってしまつ。

すると彼女は興味深そうに訊いてきた。

「久しぶりって？」

「僕 中学のときから登校拒否ひきやつて、現在引きこもり中
なんだよね。親ともあんまり話さないし。友達とかもちろんい
し」

何こんな事言つてんだろ。

しかも初対面の人。

しかし、乃亜は興味深そうに僕の顔を覗き込んでいた。

「だから…僕は」

「待つた！」

僕が話を続けようとすると、乃亜が口を挟んだ。予想外だつた。

もつとも、予想するほどの経験もないのだけれど。

「え？」

「どうせキミは、”僕は出来損ないなんだーっ”とか言おつとした
んでしょう？大丈夫。初対面のあたしに”自分引きこもりです”って
言えるんだから。うじうじして会話できないとかじゃないでしょ？」

乃亜は出会ったときのような笑顔で笑つていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5130e/>

”キミ”が輝く夜空のむこう

2010年10月28日00時53分発行